

2019年6月期 決算説明会資料

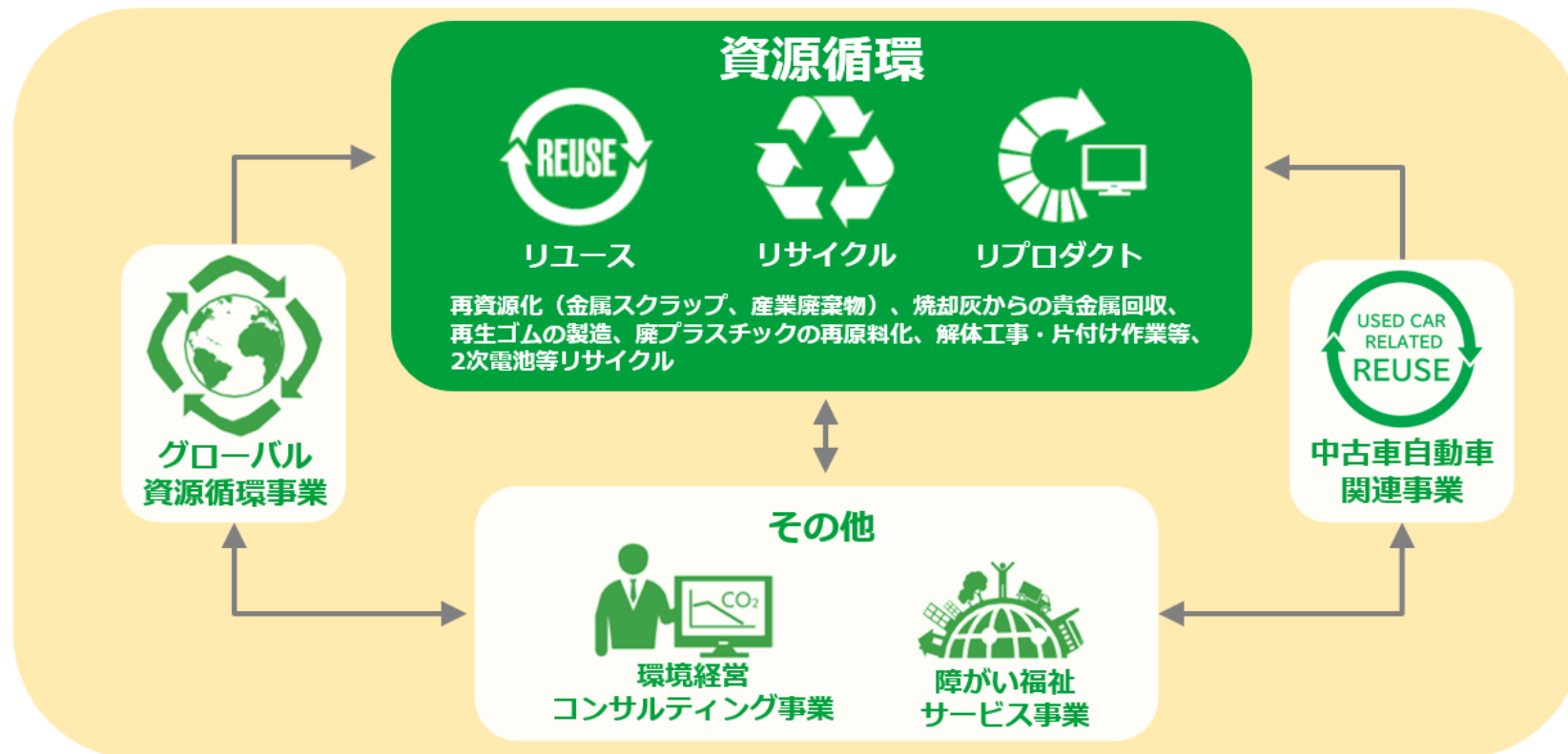
株式会社エンビプロ・ホールディングス
2019年8月23日



1. 2019年6月期 決算概要
2. 2020年6月期 見通し
3. 会社概要
4. 参考データ

1. 2019年6月期 決算概要

事業セグメント



事業セグメント	事業会社
資源循環事業	(株)エコネコル加工部門、(株)クロダリサイクル、(株)しんえこ、(株)東洋ゴムチップ、(株)プラ2プラ、(株)VOLTA 持分法適用関連会社 (株)アビツ、(株)富士エコサイクル
グローバル資源循環事業	(株)エコネコル貿易部門
中古自動車関連事業	(株)3WM (海外子会社3社含む)
その他	(環境経営コンサルティング事業)(株)ブライトイノベーション (障がい福祉サービス事業)(株)アストコ
調整	(株)エコネコル共通、(株)エンビプロ・ホールディングス

2019年6月期 ハイライト



業績

売上高	36,336百万円	(前年同期比 3.0%減)
営業利益	839百万円	(前年同期比 16.2%減)
経常利益	1,141百万円	(前年同期比 13.5%減)
当期純利益	787百万円	(前年同期比 6.4%減)

主要TOPICS

- 鉄スクラップ相場（東京製鐵岡山海上特級価格）の平均価格は31,973円と、前年同期の平均価格32,011円と同水準となったものの、不安定な経済環境の中、値動きは激しく推移し、期末時点では26,000円となった。
- 5カ年の中期戦略「サステナビリティ戦略」を定め、「社会的信用を格段に上げる」、「経営資源の効率を格段に上げる」、「生産性を格段に上げる」の重点方針のもと事業を推進。
- 固定買取価格の段階的な下落により将来性を勘案し太陽光発電所開発等を行う(株)E3を譲渡。
- 事業セグメントを細分化し、担当役員制を導入。
- 自己株式の取得を実施。
- 研究室をホールディングスに移管し、研究開発体制を強化。
- 新規事業関連 経常損失1.7億円（VOLTA、P2P、アストコ等）。

2019年6月期 連結損益計算書概要



(百万円)

	2018年 6月期	2019年 6月期	前年同期比		2019年 6月期	対前回公表比	
	実績	実績	増減額	増減率	前回公表	増減額	増減率
売上高	37,456	36,336	▲ 1,119	▲3.0%	36,332	4	0.0%
売上総利益	6,541	6,454	▲ 86	▲1.3%	—	—	—
営業利益	1,002	839	▲ 162	▲16.2%	867	▲ 27	▲3.2%
経常利益	1,319	1,141	▲ 178	▲13.5%	1,174	▲ 32	▲2.8%
税金等調整前 当期純利益	1,221	1,138	▲ 83	▲6.8%	—	—	—
当期純利益※	840	787	▲ 53	▲6.4%	778	8	1.1%
限界利益	6,481	6,681	199	3.1%	—	—	—
E B I T D A ※	1,638	1,482	▲ 155	▲9.5%	—	—	—
純粋固定費※	5,449	5,786	337	6.2%	—	—	—
ROE	8.6%	7.1%	▲1.5%	▲17.0%	—	—	—

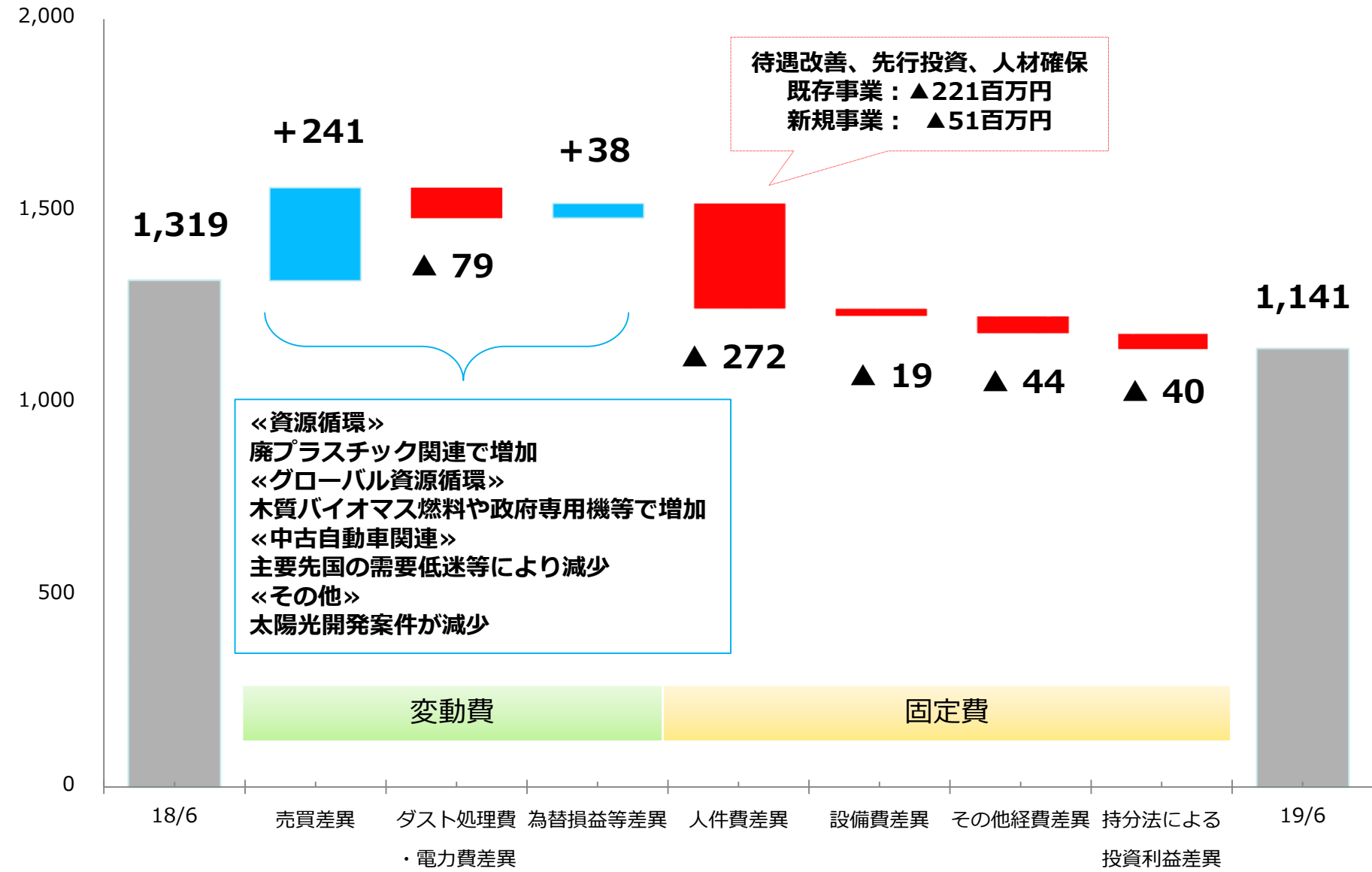
※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

※ E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

※純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

経常利益差異分析

(百万円)



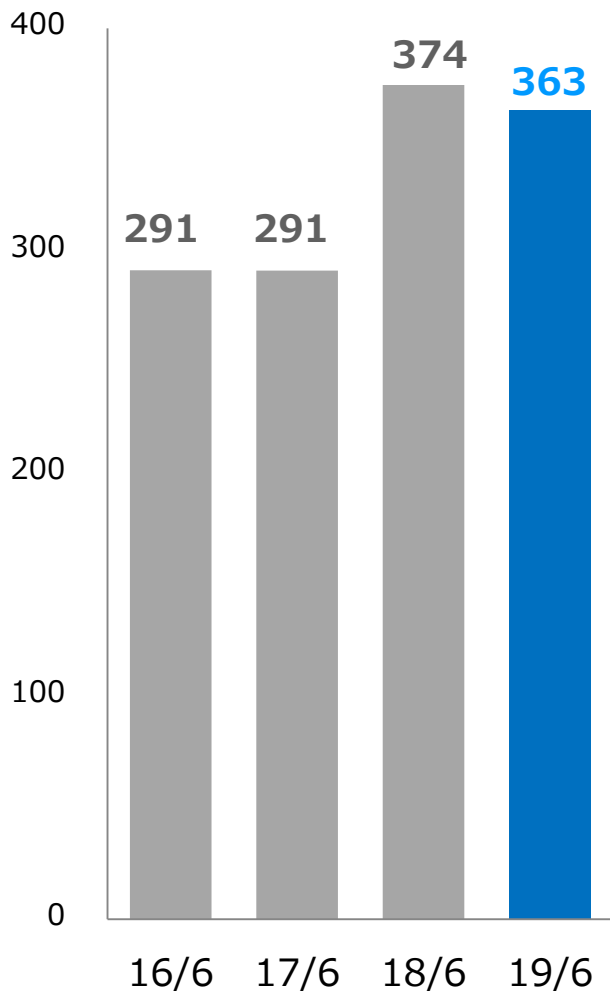
«資源循環»
 廃プラスチック関連で増加
 «グローバル資源循環»
 木質バイオマス燃料や政府専用機等で増加
 «中古自動車関連»
 主要先国の需要低迷等により減少
 «その他»
 太陽光開発案件が減少

連結業績

売上高

前年同期比
3.0%減

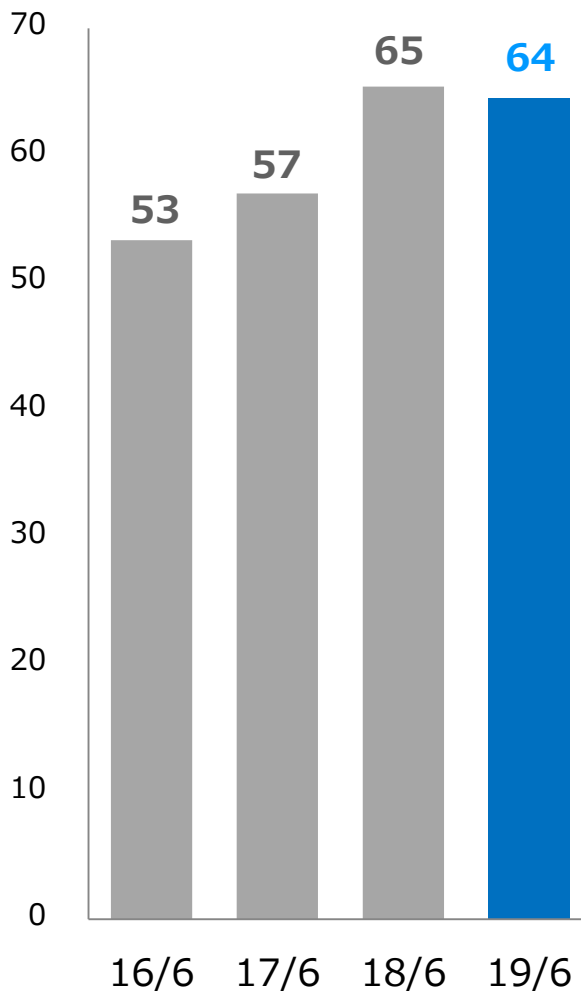
(単位：億円)



売上総利益

前年同期比
1.3%減

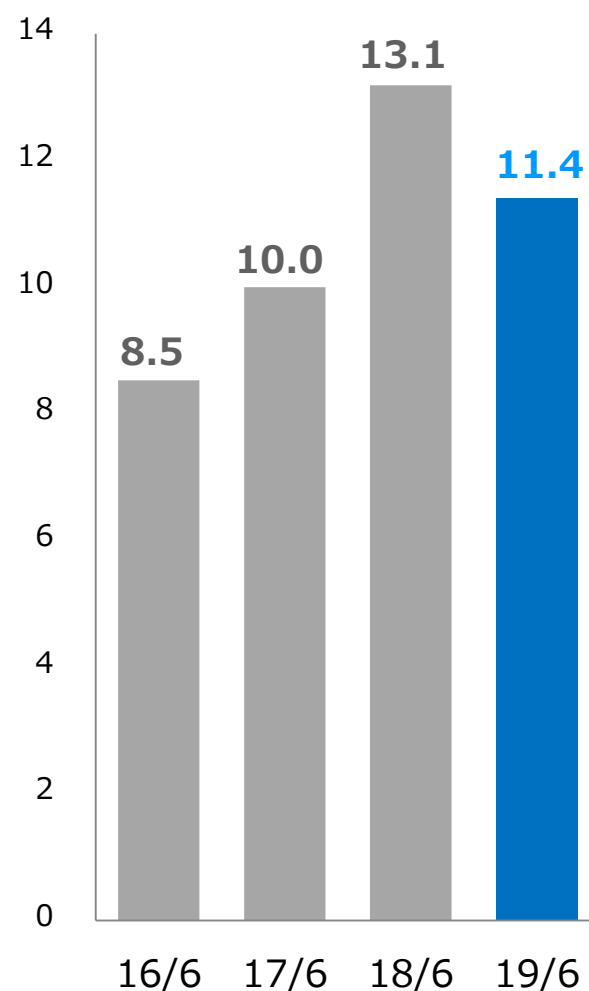
(単位：億円)



経常利益

前年同期比
13.5%減

(単位：億円)



2019年6月期 セグメント別業績概要



(百万円)

売上高	2018年6月期	2019年6月期		前期比
	実績	実績	構成比	増減率
連結	37,456	36,336	100.0%	▲ 3.0%
資源循環事業	12,898	12,712	35.0%	▲ 1.4%
グローバル資源循環事業	22,817	21,870	60.2%	▲ 4.2%
中古自動車関連事業	6,552	6,195	17.0%	▲ 5.4%
その他※	502	382	1.1%	▲ 23.8%
消去	▲ 5,313	▲ 4,824	▲ 13.3%	-

セグメント利益	2018年6月期	2019年6月期		前期比
	実績	実績	構成比	増減率
連結	1,319	1,141	100.0%	▲ 13.5%
資源循環事業	997	833	73.0%	▲ 16.4%
グローバル資源循環事業	247	448	39.3%	81.6%
中古自動車関連事業	178	18	1.7%	▲ 89.4%
その他※	17	38	3.4%	121.7%
消去・調整	▲ 120	▲ 197	▲ 17.3%	-

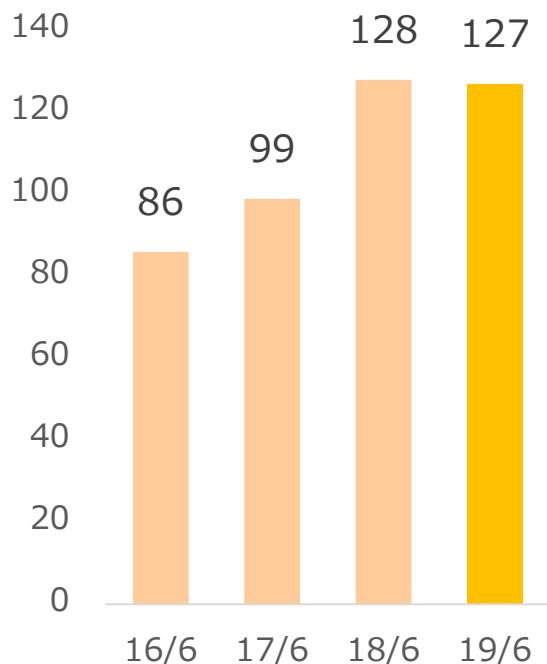
※その他には、2018年12月までの(株)E3実績を含む

セグメント別実績【資源循環事業】

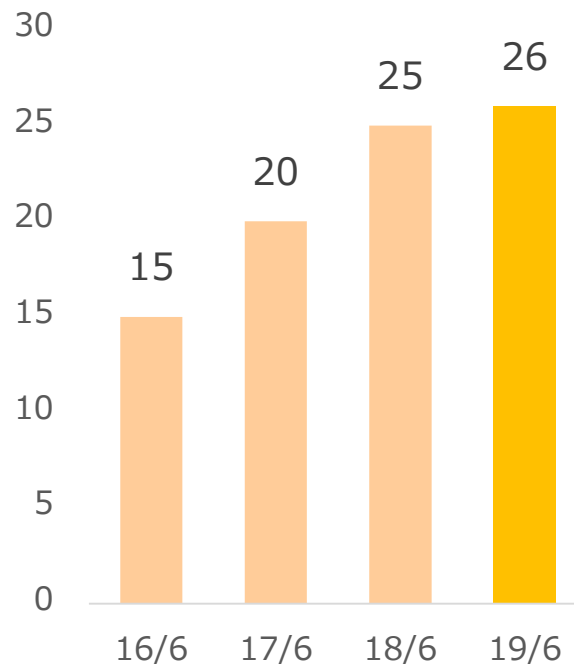


(単位：億円)

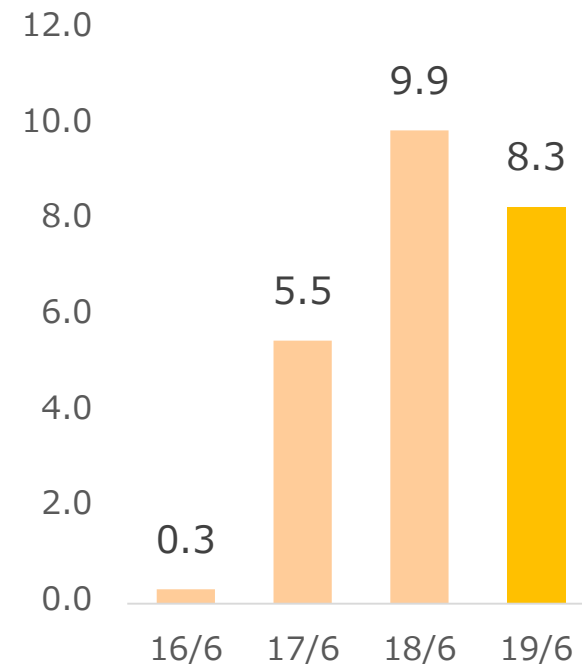
売上高



売上総利益



経常利益



- 雑品・プラスチックの国内還流による工場加工原料の増加
- R P F 原料等の処分費値上げ交渉が進捗。一方、当社が支払う処分費も値上げで増加
- 人件費増加（待遇改善、先行投資、人材確保）
- VOLTA工場の一部稼働（新規事業VOLTA・P2Pで経常損失1.1億円）
- プラスチックの亜臨界融合（バイオマス・炭素繊維等とプラスチックの融合）事業開始（6月）

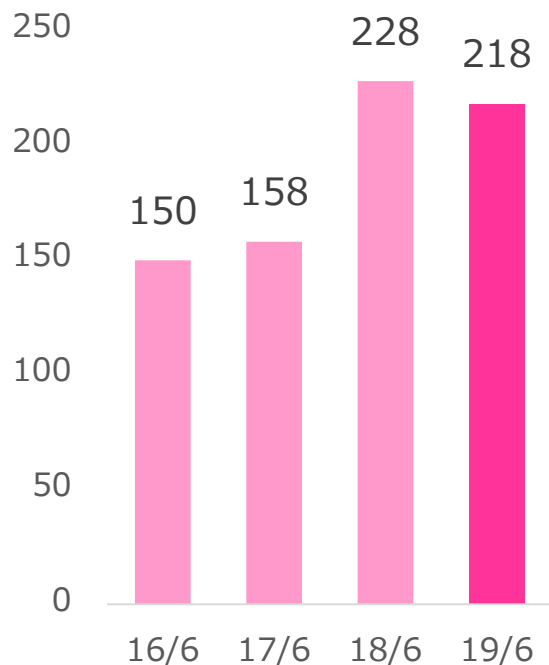
※RPF : Refuse derived paper and plastics densified Fuelの略

セグメント別実績【グローバル資源循環】

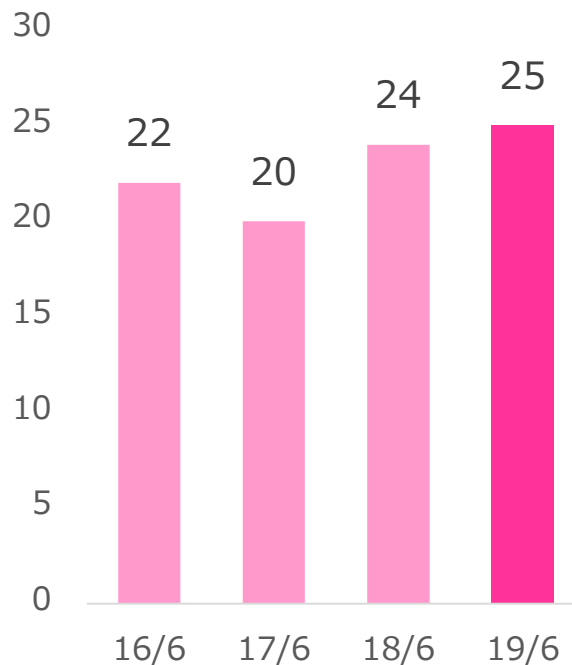


(単位：億円)

売上高



売上総利益



経常利益



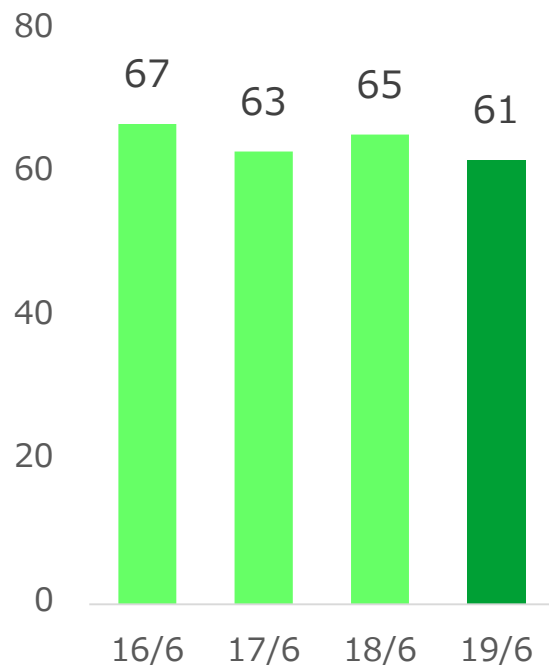
- 前半は鉄スクラップの内外価格差の減少により低迷したが、後半は相場の上昇局面を活用したことで、活発な取引が続き増益
- 木質バイオマス事業が黒字化
- 政府専用機の販売（1機分）
- 国内鉄スクラップ集荷ヤード増設（尼崎港）

セグメント別実績【中古自動車関連】

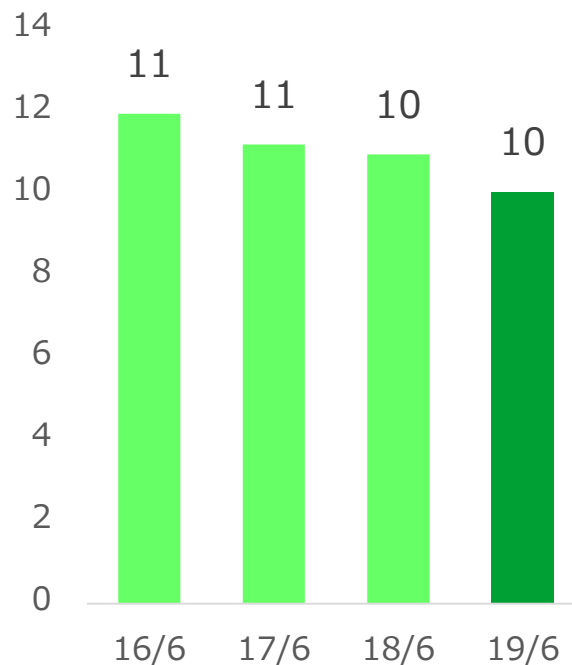


(単位：億円)

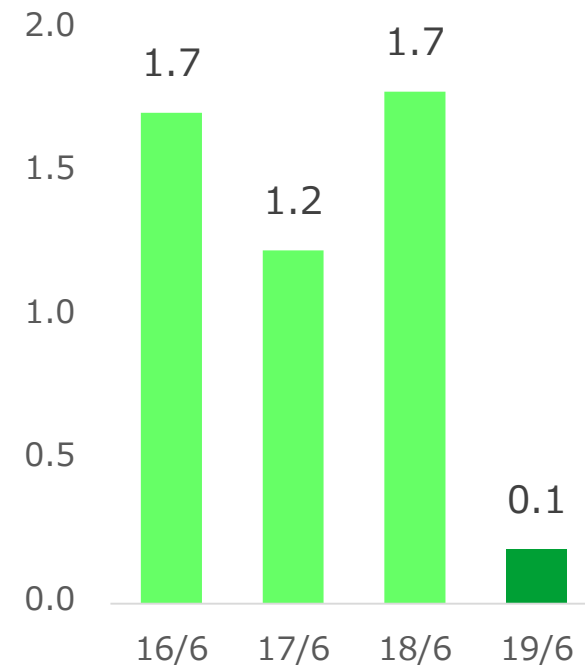
売上高



売上総利益



経常利益

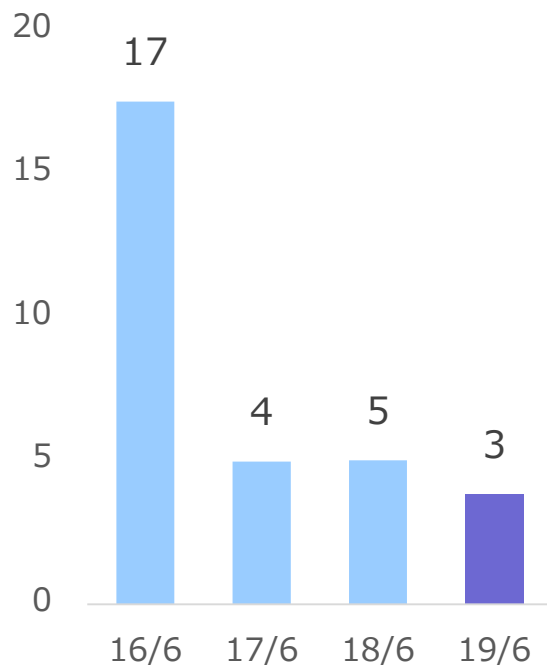


- 主要輸出先国での中古車需要の低下、価格競争により現地販売価格が下落し、中古車両販売の利幅と販売量が減少
- 物流代行サービスにおいても価格競争による利幅の減少により、低調に推移

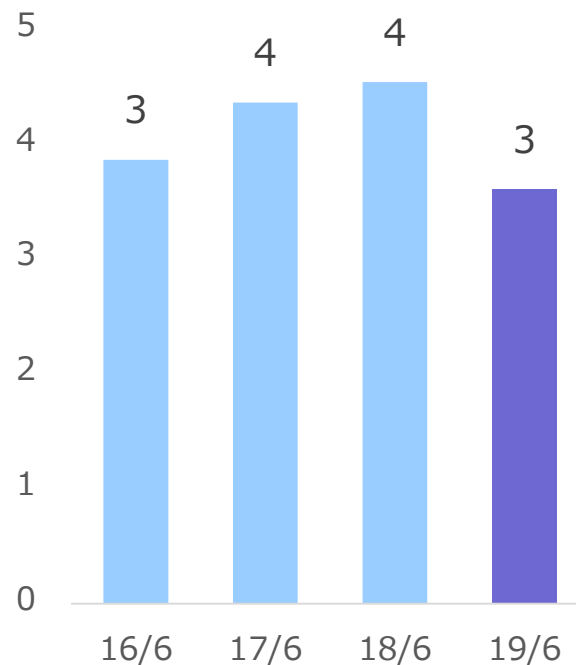
セグメント別実績【その他】

(単位：億円)

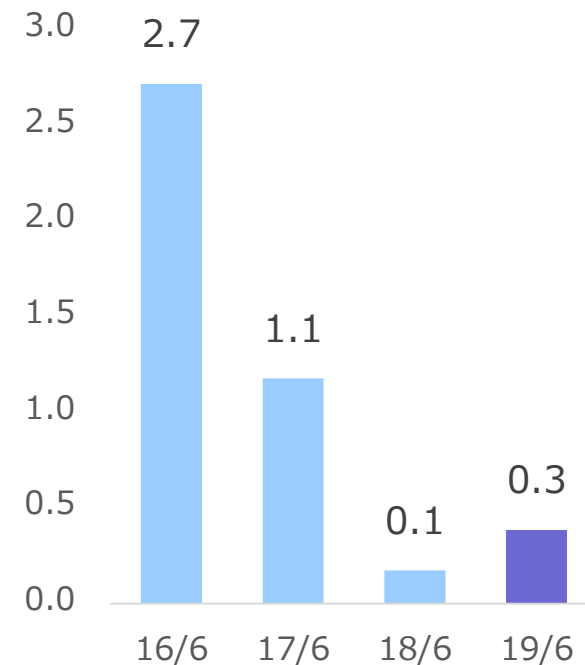
売上高



売上総利益



経常利益



- 環境経営コンサルティング事業は継続受注により利益に貢献
- 障がい福祉サービス事業は、通期での損益分岐点が目前
- 太陽光発電所開発事業等を行う(株)E 3を、固定買取価格の段階的な下落により将来性を勘案し譲渡

連結貸借対照表概要



(百万円)

	2018年 6月末	2019年 6月末	増減額		2018年 6月末	2019年 6月末	増減額
流動資産	11,492	11,152	▲ 340	流動負債	7,135	5,172	▲ 1,962
固定資産	10,168	8,607	▲ 1,561	固定負債	3,258	3,025	▲ 232
（有形固定資産）	5,442	6,130	688	負債合計	10,393	8,197	▲ 2,195
（無形固定資産）	95	89	▲ 5	純資産	11,268	11,562	293
（投資その他の資産）	4,630	2,386	▲ 2,243	（株主資本）	10,889	11,195	306
資産合計	21,661	19,759	▲ 1,901	負債純資産合計	21,661	19,759	▲ 1,901

主要TOPICS

- 流動資産（現金及び預金▲2,112百万円、受取手形及び売掛金238百万円、商品及び製品+962百万円）
- 固定資産（土地・建物211百万円、機械装置426百万円、出資金▲2,411百万円）
- 流動負債（短期借入金▲2,421百万円）
- 固定負債（長期借入金▲295百万円）
- 自己資本比率 56.7%（前年対比6.4%増）
- (株)E3の譲渡により出資金・短期借入金が減少し経営の安定性が向上

連結キャッシュ・フロー計算書概要



(百万円)

項目	2018年6月期	2019年6月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	843	▲ 87	▲ 931
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 618	▲ 601	16
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,550	▲ 1,440	▲ 3,990
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	▲ 12	▲ 28
現金及び現金同等物の増減額	2,790	▲ 2,142	▲ 4,932
現金及び現金同等物の期首残高	2,066	4,856	2,790
現金及び現金同等物の期末残高	4,856	2,714	▲ 2,142

主要TOPICS

- 営業CF：(収入) 税金等調整前当期純利益1,138百万円、減価償却費638百万円
(支出) たな卸資産増加1,012百万円、法人税等の支払額492百万円、売上債権の増加261百万円、持分法投資利益増加246百万円
- 投資CF：(収入) 出資金の回収による収入1,520百万円
(支出) 有形固定資産の取得1,220百万円、出資金の払込による支出942百万円
- 財務CF：(支出) 短期借入金の返済588百万円、長期借入金の返済571百万円、**自己株式取得273百万円**

2. 2020年6月期 見通し

足元の事業環境と取り組み

事業環境

- 米中の貿易摩擦等により不安定な経済状況が続く中、鉄・非鉄金属スクラップ価格についても引き続き弱含みな状況が続くことを予測。

業績予想前提条件：鉄相場25千円/ t (24千円)、銅相場600千円/ t (650千円)、為替105円/USD(106円台)

※ () 内は8月23日時点価格

主な取り組み

- ① 鉄スクラップの取扱量を増やすと同時に非鉄金属スクラップ、レアメタル、貴金属（金銀滓）の取扱量を増やす。
- ② 金属相場に左右されにくい事業領域の取り扱いを増やす。
 - ・ 廃棄物処理（逆有償）を増やす。
 - ・ 廃棄物由来のプラスチックのリサイクル率を上げる。また 同時により付加価値の高い商品を作る。
 - ・ プラント解体等で情報源に近い業界との協業モデルを増やす。
- ③ 新たな輸出入先、輸出入商材、三国間貿易を増やす。
 - ・ PKS、木質ペレットの輸入及び三国間貿易を増やす。
 - ・ 欧州からの金銀滓の輸入を増やす。
 - ・ 新たな貿易アイテムを増やす。（プラスチックペレット、金属商品等）
- ④ LIBリサイクルプラントを安定操業し、次の展開を模索する。
 - ・ BS（ブラックサンド）製造を安定的に行い、第2拠点の設置（パートナーとの協業）を模索する。
 - ・ 次のステージである湿式精錬の取り組みを一緒にやれるパートナーを探す。（技術、資金、商材）
- ⑤ 経営基盤、成長基盤を長期的目線で強化する。
 - ・ 人件費の上昇をまかなえる生産性を向上させる。
 - ・ 攻めのガバナンスで長期的成長の基礎を作る。
 - ・ 新たな人材を積極的に採用し、同時に既存人材の能力開発を強化する。

2020年6月期業績見通し（連結）



（百万円）

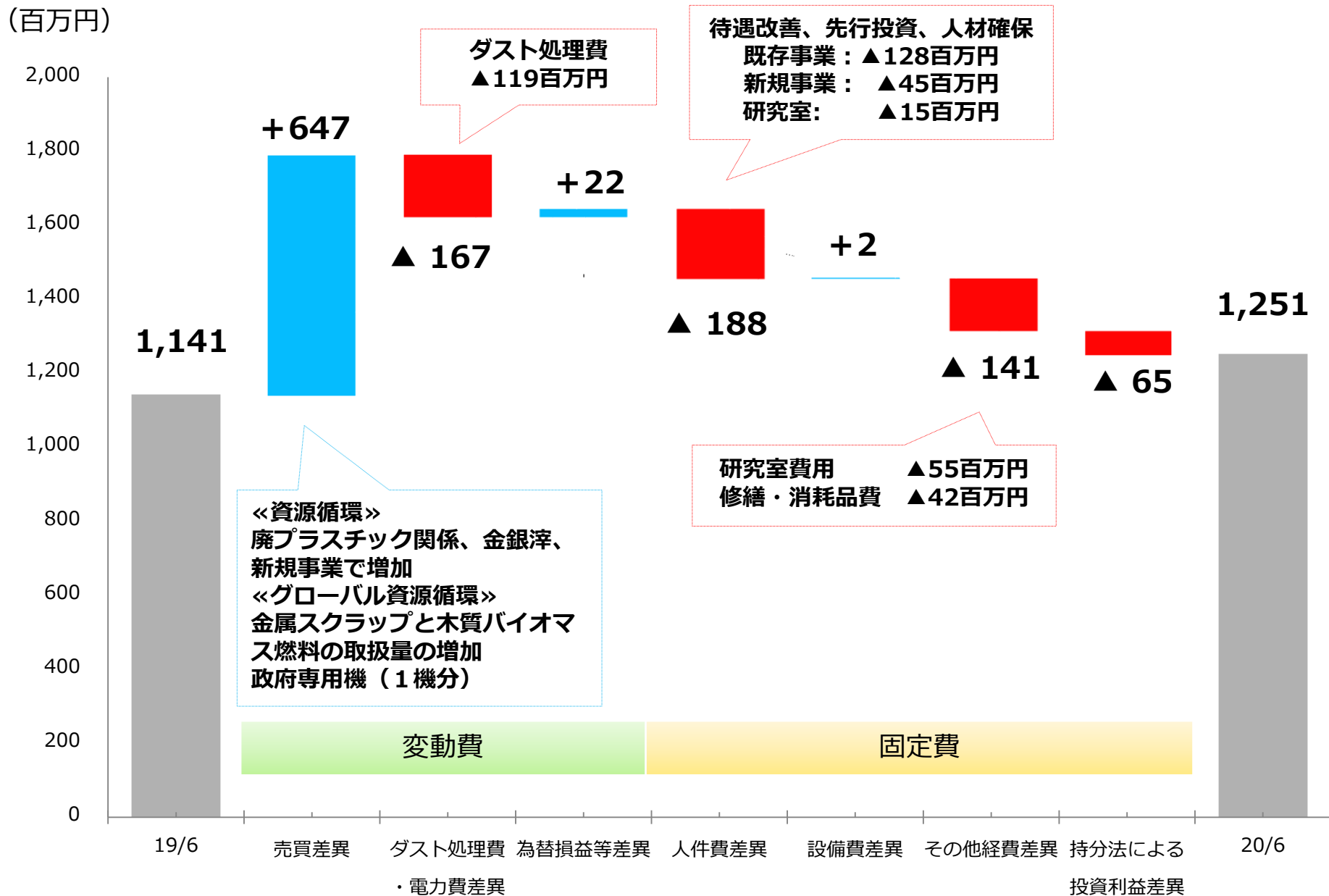
	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期		
	実績	実績	予想	増減額	増減率
売上高	37,456	36,336	36,571	234	0.6%
売上総利益	6,541	6,454	7,440	985	15.3%
営業利益	1,002	839	981	141	16.9%
経常利益	1,319	1,141	1,251	109	9.6%
税金等調整前	1,221	1,138	1,258	119	10.5%
当期純利益※	840	787	892	105	13.4%
限界利益	6,481	6,681	7,184	502	7.5%
E B I T D A	1,638	1,482	1,634	151	10.2%
純粋固定費	5,449	5,786	6,114	327	5.7%
ROE	8.6%	7.1%	7.7%	0.6%	8.4%

※当期純利益 = 親会社株主に帰属する当期純利益

※ E B I T D A = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却

※純粋固定費 = 【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】 - 【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

経常利益差異分析



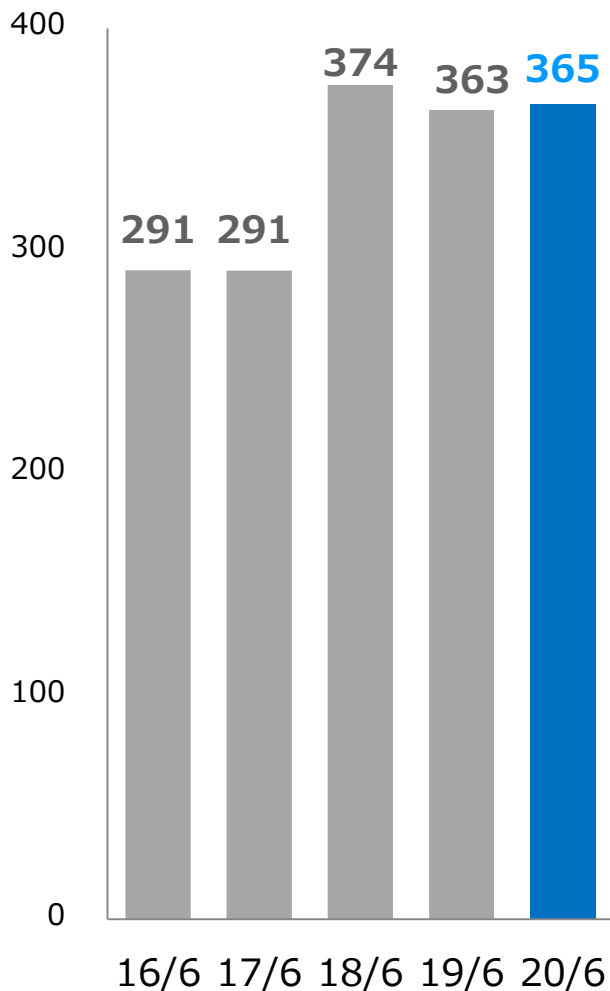
連結業績予想



売上高

前年同期比
0.6%増

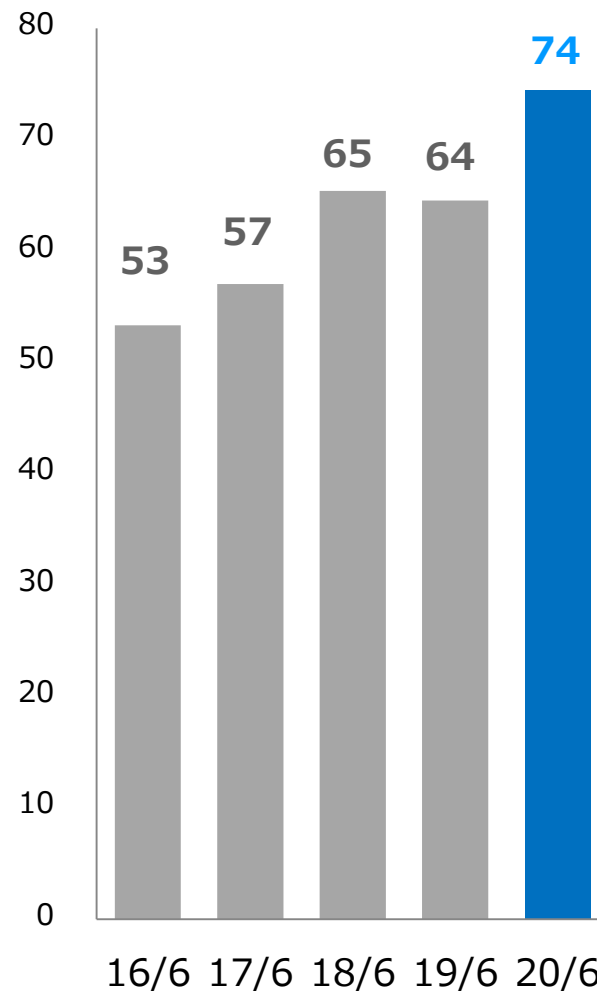
(単位：億円)



売上総利益

前年同期比
15.3%増

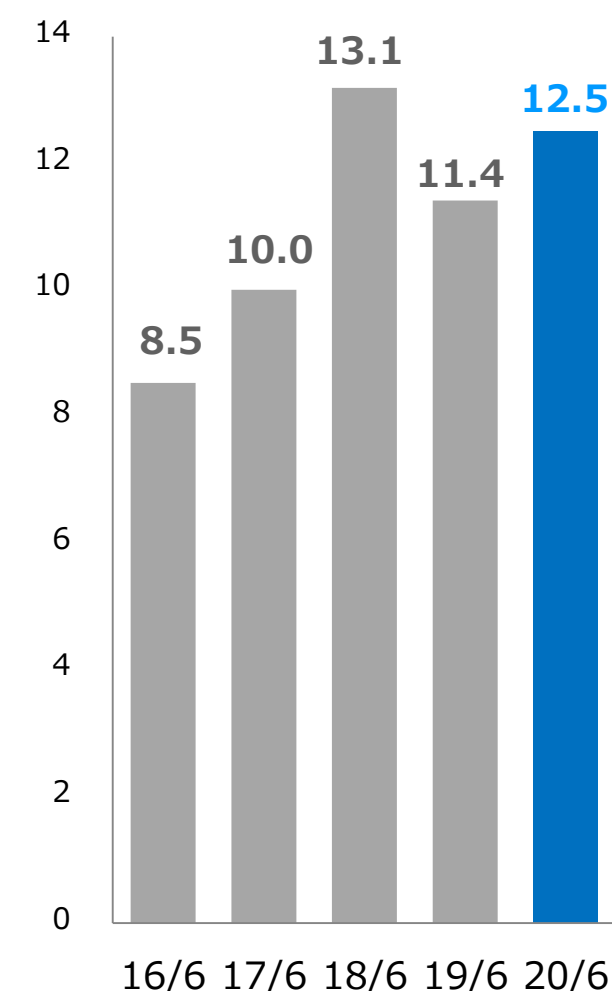
(単位：億円)



経常利益

前年同期比
9.6%増

(単位：億円)



2020年6月期業績見通し（セグメント）



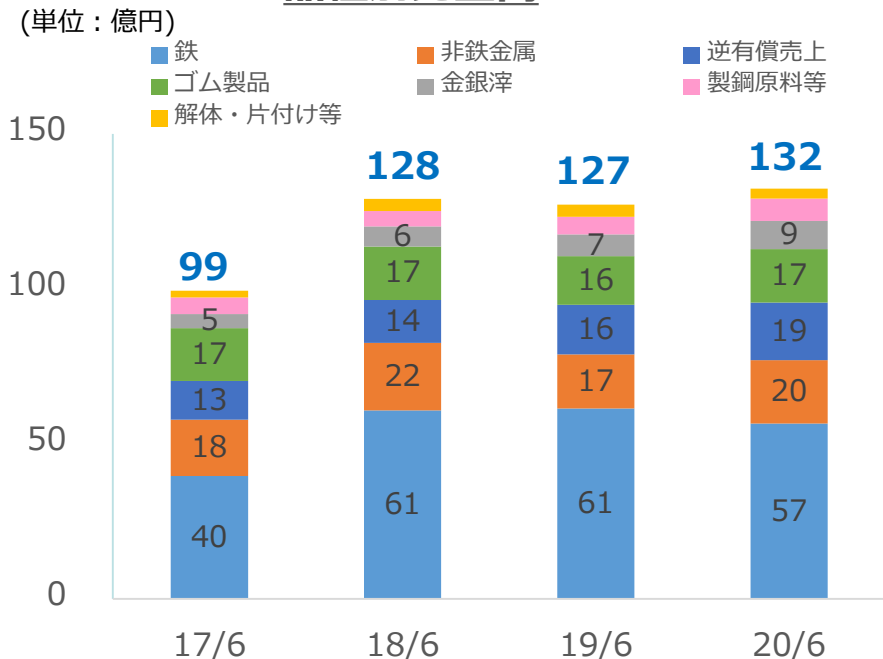
(百万円)

売上高	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期		
	実績	実績	予想	増減率	構成比
連結	37,456	36,336	36,571	0.6%	100.0%
資源循環事業	12,898	12,712	13,225	4.0%	36.2%
グローバル資源循環事業	22,817	21,870	21,261	▲ 2.8%	58.1%
中古自動車関連事業	6,552	6,195	6,173	▲ 0.4%	16.9%
その他	502	382	289	▲ 24.4%	0.8%
消去	▲ 5,313	▲ 4,824	▲ 4,378	-	▲ 12.0%

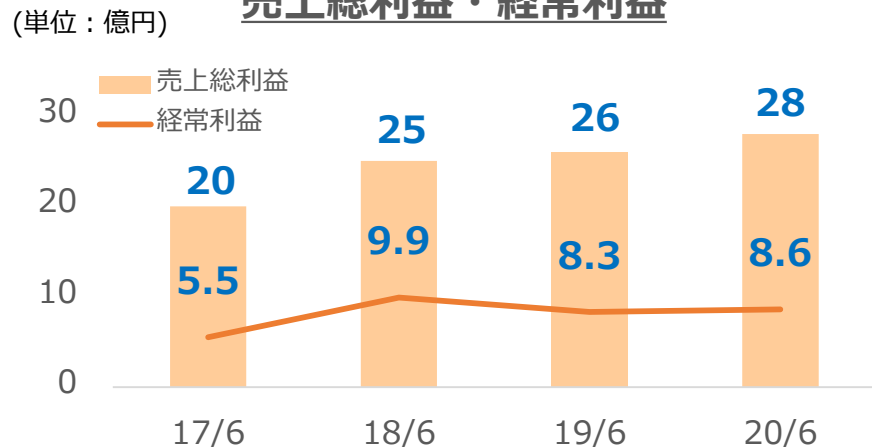
セグメント利益	2018年6月期	2019年6月期	2020年6月期		
	実績	実績	予想	増減率	構成比
連結	1,319	1,141	1,251	9.6%	100.0%
資源循環事業	997	833	865	3.8%	69.1%
グローバル資源循環事業	247	448	526	17.3%	42.1%
中古自動車関連事業	178	18	89	372.1%	7.1%
その他	17	38	24	▲ 35.9%	2.0%
消去・調整	▲ 120	▲ 197	▲ 253	-	▲ 20.3%

連結業績予想（資源循環事業）

品種別売上高



売上総利益・経常利益



金属スクラップの価格変動の影響が大きい

- ・ 価格が高い方が利益が出やすい
- ・ 上げ相場の際に利益が出やすい

(課題) 相場変動の影響を受けにくい体質へ変革していく

業績予想前提条件

- ・ 鉄スクラップ価格 25,000円/ t (前期比▲21.8%)
- ・ 銅スクラップ価格600,000円/ t (前期比▲17.5%)

利益創出要因

加工による付加価値向上

相場の影響大

- ① 金属スクラップ取扱量 (18.2万t→18.8万t)
- ② 金銀滓

相場に左右されにくい分野

- ③ 逆有償売上
- ④ 解体工事・片付け・中古品販売・土壌浄化
- ⑤ 委託加工

新市場・新技術への投資

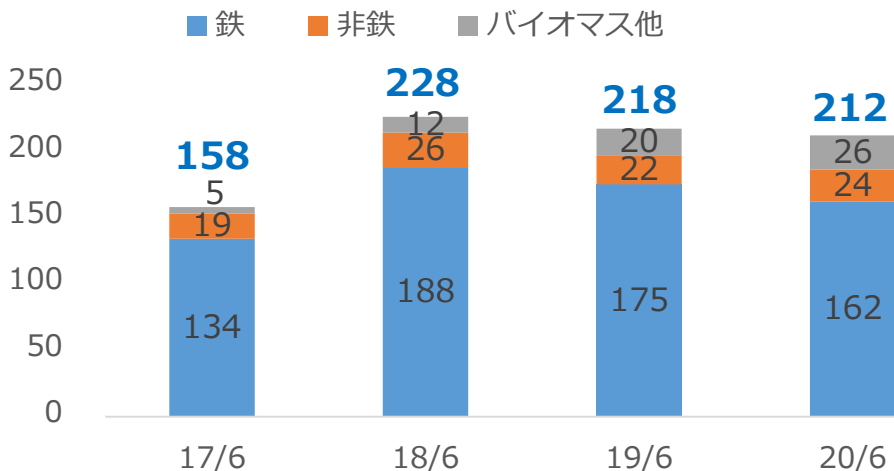
- ・ 2次電池リサイクル
- ・ 亜臨界融合技術
- ・ 新商品開発 (東洋ゴムチップ)

約2億円の経常損失を計画 (20/6期)

連結業績予想（グローバル資源循環事業）

品種別売上高

(単位：億円)



金属スクラップの価格自体の影響は比較的少ない
但し、下げ相場の際に利益が出やすい

業績予想前提条件

- ・鉄スクラップ価格 25,000円/ t (前期比▲21.8%)
- ・銅スクラップ価格600,000円/ t (前期比▲17.5%)

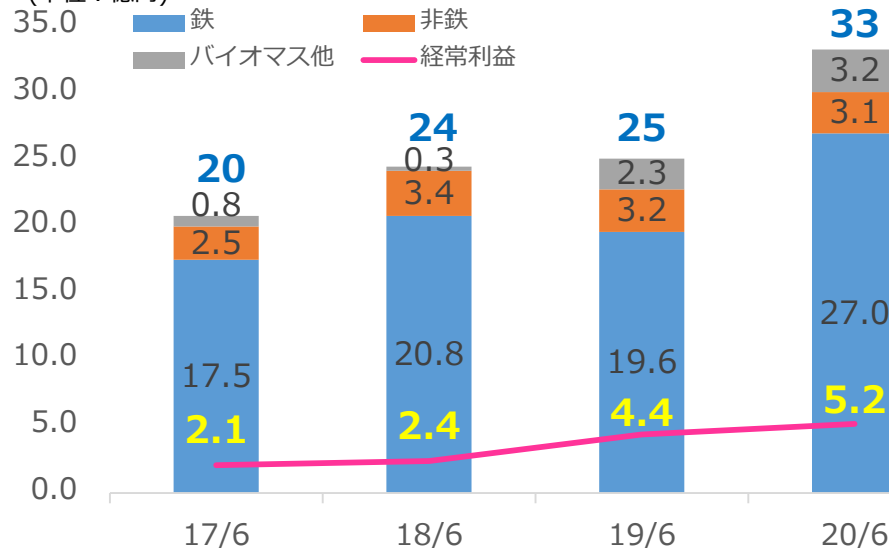
利益創出要因

取扱量 × 利幅（利益率）

- ①リードタイム中の海外・国内価格の差
- ②取扱量
- ③相場変動の活用（下げ相場での先売り）

品種別売上総利益・品種合計経常利益

(単位：億円)



主な取組み

- ①金属スクラップ取扱量の増大
(46万 t → 60万 t)
- ②輸入原料取扱量の増大 (3万 t → 10万 t)
 - ・PKS集荷の海外現地法人（マインバイオマス）の馬・印ヤード（2箇所）活用
 - ・欧州からの金銀滓（90 t → 500 t）
- ③取扱いアイテムの増加
 - ・リサイクルペレット、金属製品等
- ④三国間貿易の促進

今期のトピックス

- ①LIBリサイクルプラントの現状及びセカンドフェーズを見据えた今後の課題
- ②金銀滓回収事業の拡大
- ③中国輸出が止まった廃プラスチック、雑品への対応
- ④プラント解体、残置物の片付け、中古品販売、土壌浄化
- ⑤エンビプロHD研究室の発足（エコネコルから移管）

① LIBリサイクルプラントの現状及びセカンドフェーズを見据えた今後の課題

急拡大する2次電池市場に対し、グループの経営資源を集中的に投入して、使用済み2次電池等からのレアメタル（ニッケル・コバルト等）回収事業に本格的に参入する

VOLTAの現時点の状況

LIBリサイクル設備の導入が第1四半期に完了
2019年第2四半期より生産開始見込

2018年9月 電極材リサイクルライン稼働/負極板生産開始



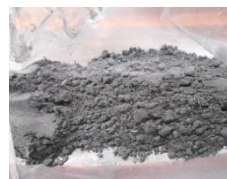
負極板



電極材リサイクルライン



銅



カーボン等

2019年9月 LIBリサイクルライン完成見込



LIB



LIBリサイクルライン



Co、Ni濃縮滓
(以下、BS)

湿式製錬法による

硫酸コバルト



硫酸ニッケル



炭酸リチウム

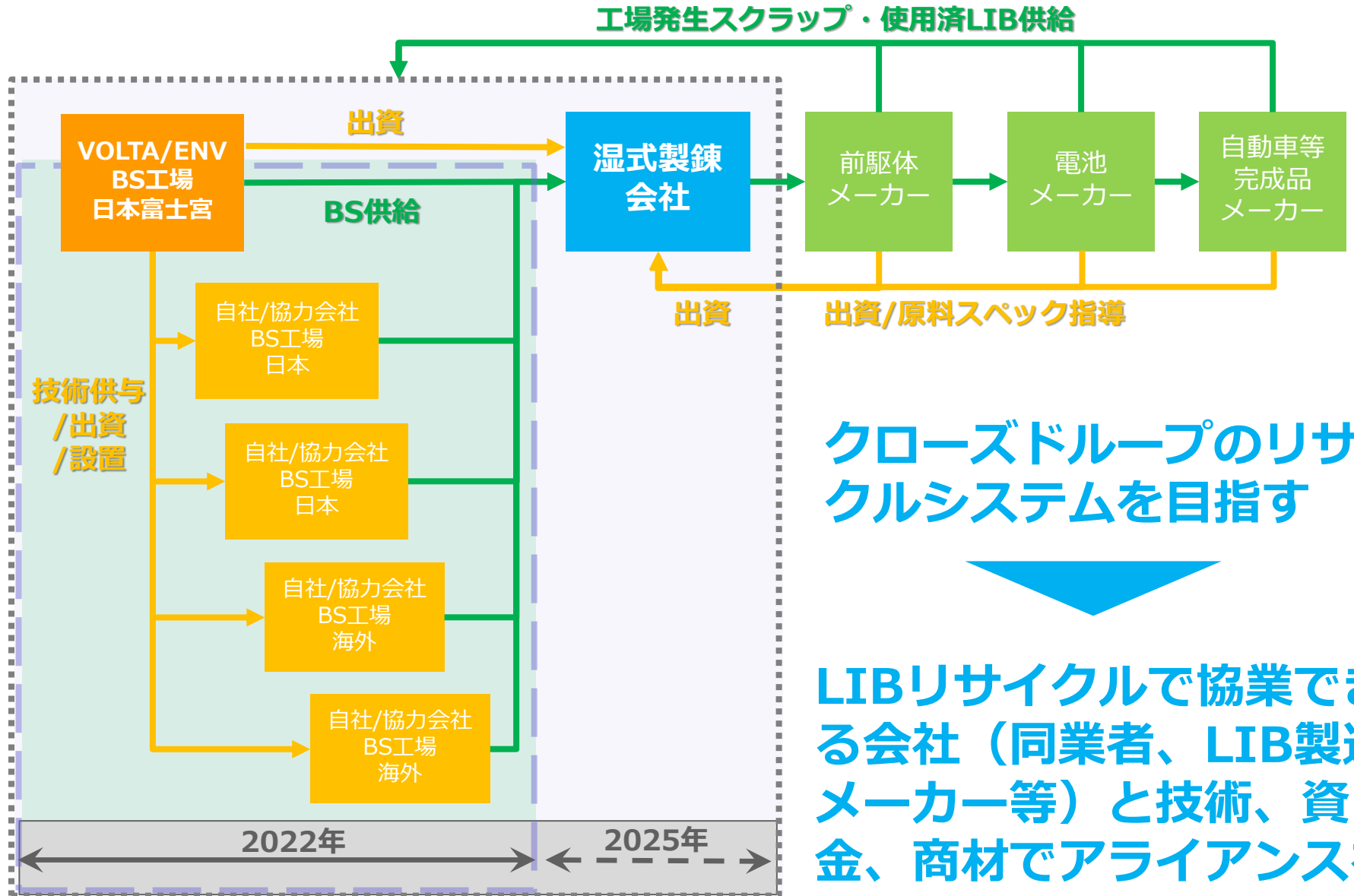


等の有用金属回収

※回収物は、例示

BS以降のプロセス
本格検討開始

①セカンド フェーズ：湿式製錬を念頭に

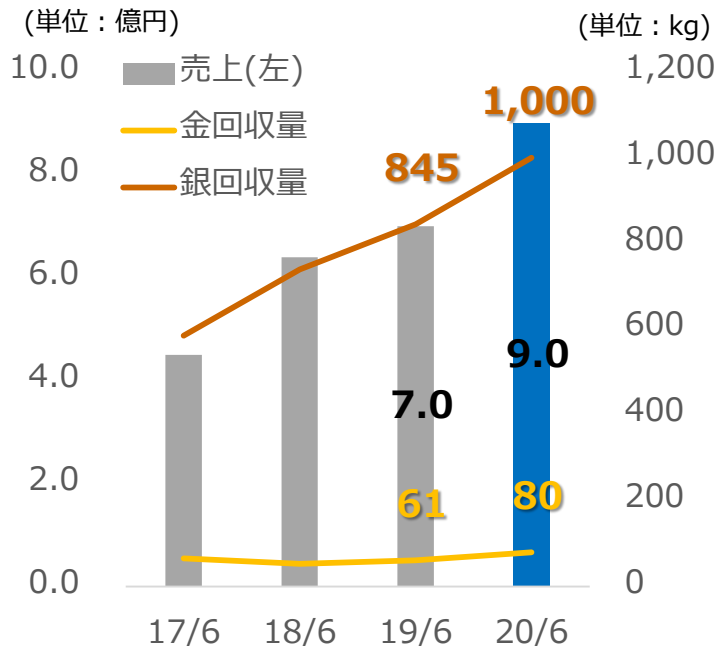


クローズドループのリサイクルシステムを目指す

LIBリサイクルで協業できる会社（同業者、LIB製造メーカー等）と技術、資金、商材でアライアンスを組む

②金銀滓回収事業の拡大

焼却灰、自動車破碎残渣等からの金銀滓（銅、金、銀、プラチナ、パラジウムの混合物）の回収を事業の柱の1つにしていく



金銀滓
(ミックスメタル)

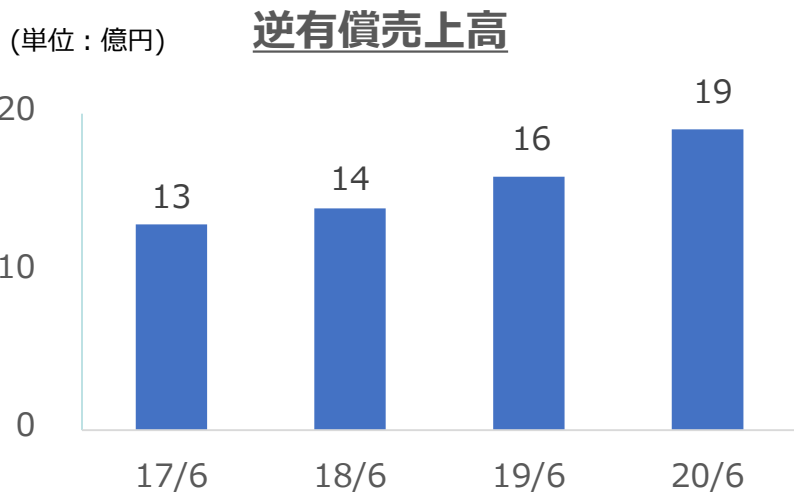
- 一般廃棄物焼却施設の落じん灰等の取引自治体数増加
⇒現在7自治体と契約済、20自治体が取引を検討中
- 小型家電、雑品等からの金銀滓回収
- 欧州等からの金銀滓輸入を本格立上げ
(欧州拠点新設検討中)
- 欧米からの電子基盤スクラップ輸入の営業強化
R2 認証取得 (アビズ2019年3月、エコネコル2019年8月)
認証企業：全国に6社 (2019年8月23日現在)
- 太平洋セメント(於大船渡工場)との実証事業
(今期中に事業化判断)
- 大手製錬会社からの加工受託拡大 (電子基盤等)

※R2 (Responsible Recycling = 責任あるリサイクル) 認証は、米国環境保護庁 (EPA) により推進される、携帯電話やテレビ、コンピューターなどの使用済みの電子機器のリサイクルを対象とした環境、労働安全衛生、情報セキュリティに関するマネジメントシステム。

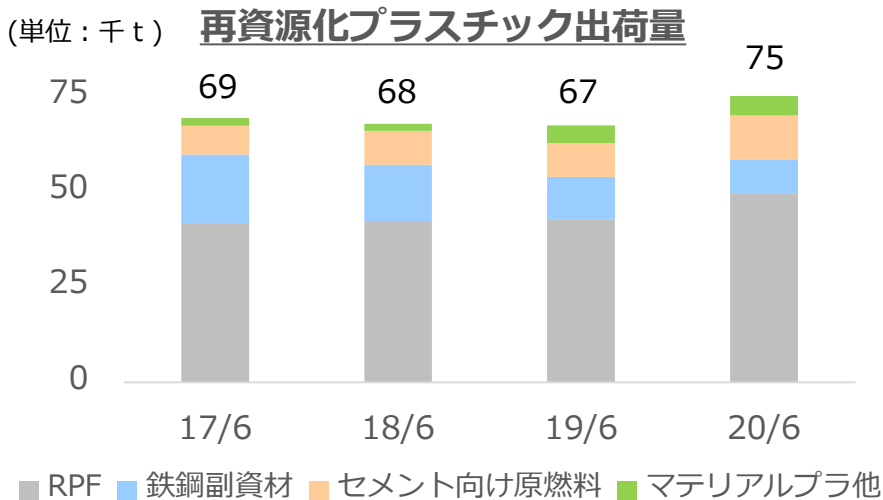
③中国輸出が止まった廃プラスチック、雑品への対応



1. 逆有償（処分費）売上を増加

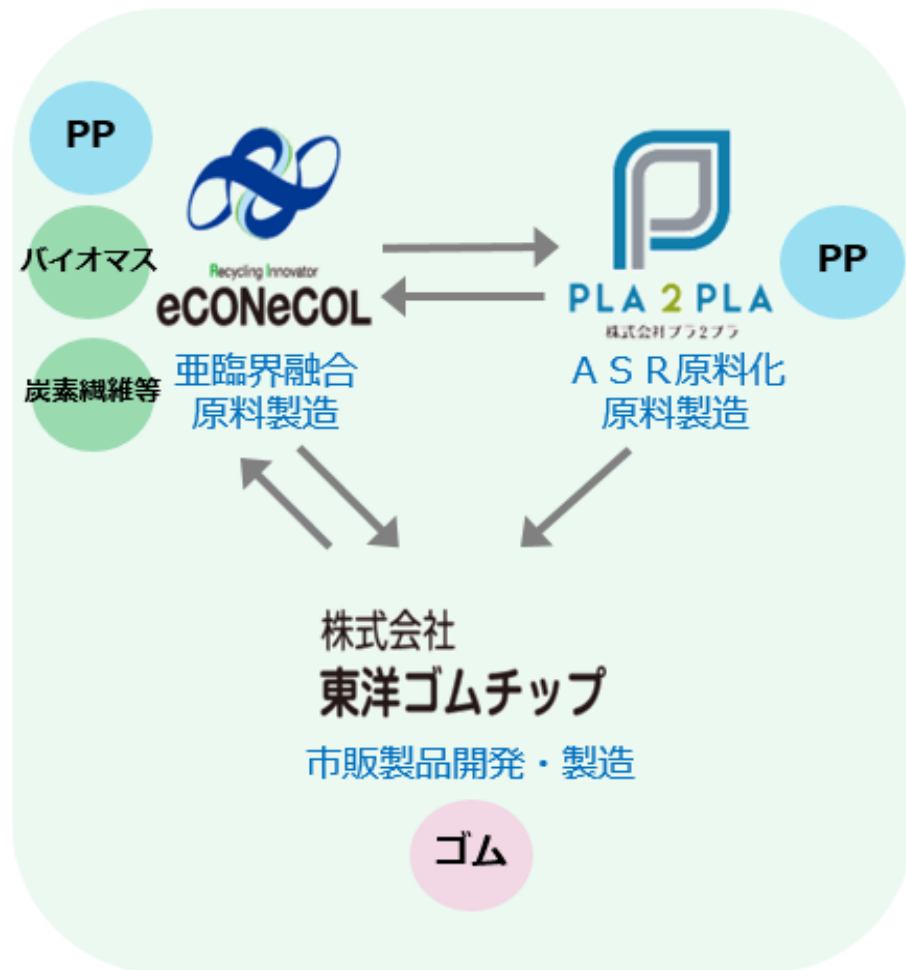


2. 廃プラスチックの用途拡大



3. 新機能素材開発

亜臨界融合を活用して新機能素材を用途先と一緒に開発していく



④プラント解体、残置物の片付け、中古品販売、土壌浄化

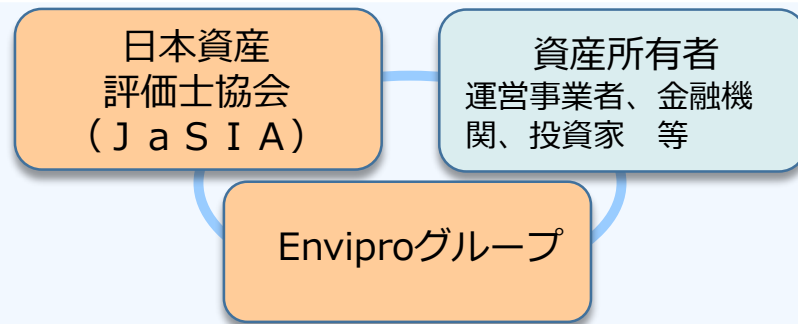


プラント解体等で物件を保有する会社、物件情報に近い会社・団体との協業モデルを増やす

1. 日本資産評価士協会との連携で新たな事業モデルを構築していく

グループの強みを活かした資産の価値評価、換価を協会と連携

- ・資源リサイクル
- ・グローバルネットワーク
- ・解体撤去工事



2. 大手リース会社との連携による新たな事業モデル（2019年4月稼働）

株式会社SMART

出資比率
51% アビツ
49% SMFLみらいパートナーズ



SMART inc

リースアップ資産
中古売却

リースアップ資産
スクラップ売却

リースアップ資産
解体撤去工事

3. その他異業種との連携の模索

国際的オークション会社、中古品販売会社、リース会社等との協業を模索していく

⑤エンビプロHD研究室の発足（エコネコルから移管）



グループに新たな知見をもたらすとともに、次世代新規事業の基盤技術を確立する

《分析・研究》

- 金銀滓、電池等の各種素材分析
- リチウムイオン電池等リサイクル湿式製錬検証・事業化
- 焼却灰の無害化及び資源化研究
- 亜臨界融合技術の検証
- 知的財産の管理

企業理念

創業企業

つねに社会にとって必要な事業を創造しつづける

循環企業

助け合い、活かし合い、分かち合う喜びの環を回しつづける

求道企業

永遠につづく企業の道、人の道を追求しつづける

ミッションステートメント
持続可能社会実現の一翼を担う

サステナビリティ戦略

- 経営・成長基盤
- 人材開発
 - 安全
 - 組織
 - 知財
 - 研究
 - 情報
 - ブランド
 - ガバナンス

グループシンナジー

- 資源循環
- グローバル資源循環
- 中古自動車関連
- その他

- 既存事業の深耕
事業領域拡大
技術革新
生産性向上
- 新たな柱の構築
成長投資
他社との連携
- 基盤の強化
人材開発
ブランド構築
ガバナンス強化

利益配分

成長投資	30%
研究開発	10%
株主還元	30%
内部留保	30%

～2012年度
基盤の構築
・結果を出す
・新たな成長の底力をつける

～2014年度
成長への種まき
・事業モデルを創りかえる
・多様性を推進する

～2019年度～
成長への投資
・創りかえる
・新規事業の推進
・経営資源の選択と集中

3. 会社概要

グループ概要



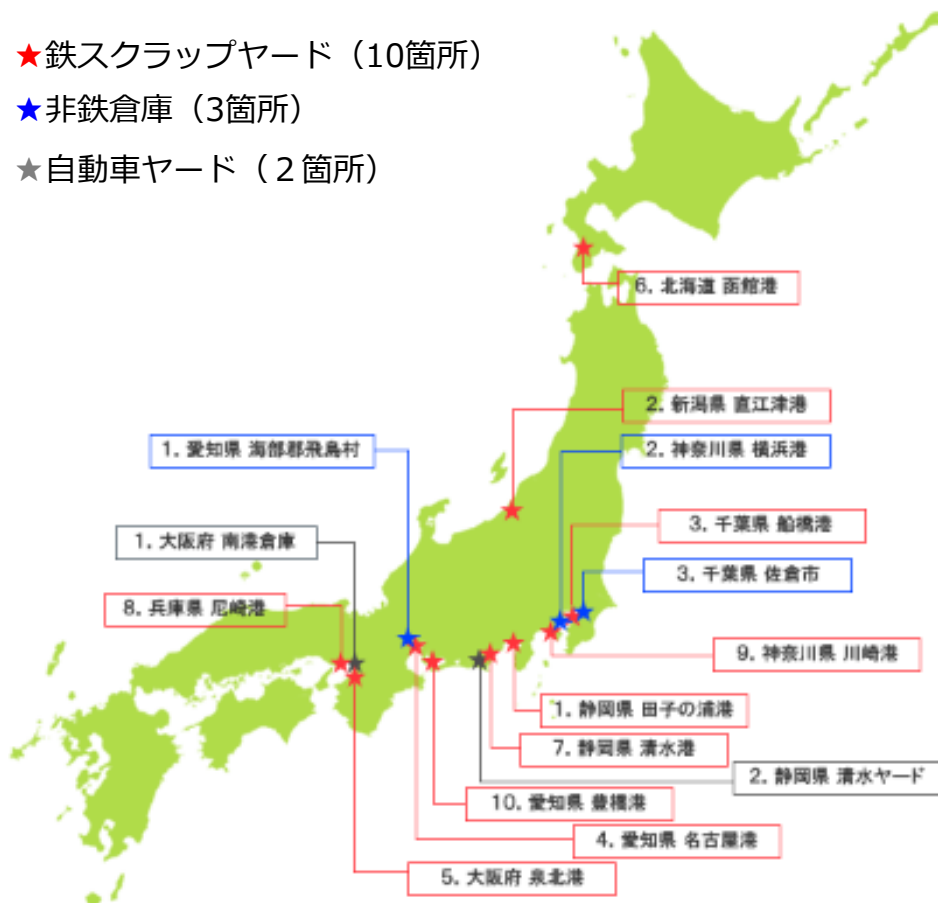
本	社	静岡県富士宮市山宮3507番地の19
代	表	代表取締役社長 佐野富和
設	立	2010年5月
グ	ル	グループ会社
ー	プ	
会	社	連結子会社12社(孫会社含む)、持分法適用関連会社2社
従	業	従業員数
員	数	
		単体30名（連結418名） ※2019年6月末現在

事業セグメント	事業会社、部門
資源循環事業	(株)エコネコル加工部門、(株)クロダリサイクル、(株)しんえこ、(株)東洋ゴムチップ、(株)プラ2プラ、(株)VOLTA 持分法適用関連会社 (株)アビツ、(株)富士エコサイクル
グローバル資源循環事業	(株)エコネコル貿易部門
中古自動車関連事業	(株)3WM（海外子会社3社含む）
その他	(環境経営コンサルティング事業) (株)ブライトイノベーション (障がい福祉サービス事業) (株)アストコ
調整	(株)エコネコル共通、(株)エンビプロ・ホールディングス

※従業員数は正社員数

【流通拠点】

- ★鉄スクラップヤード（10箇所）
- ★非鉄倉庫（3箇所）
- ★自動車ヤード（2箇所）



【加工拠点】（10箇所）

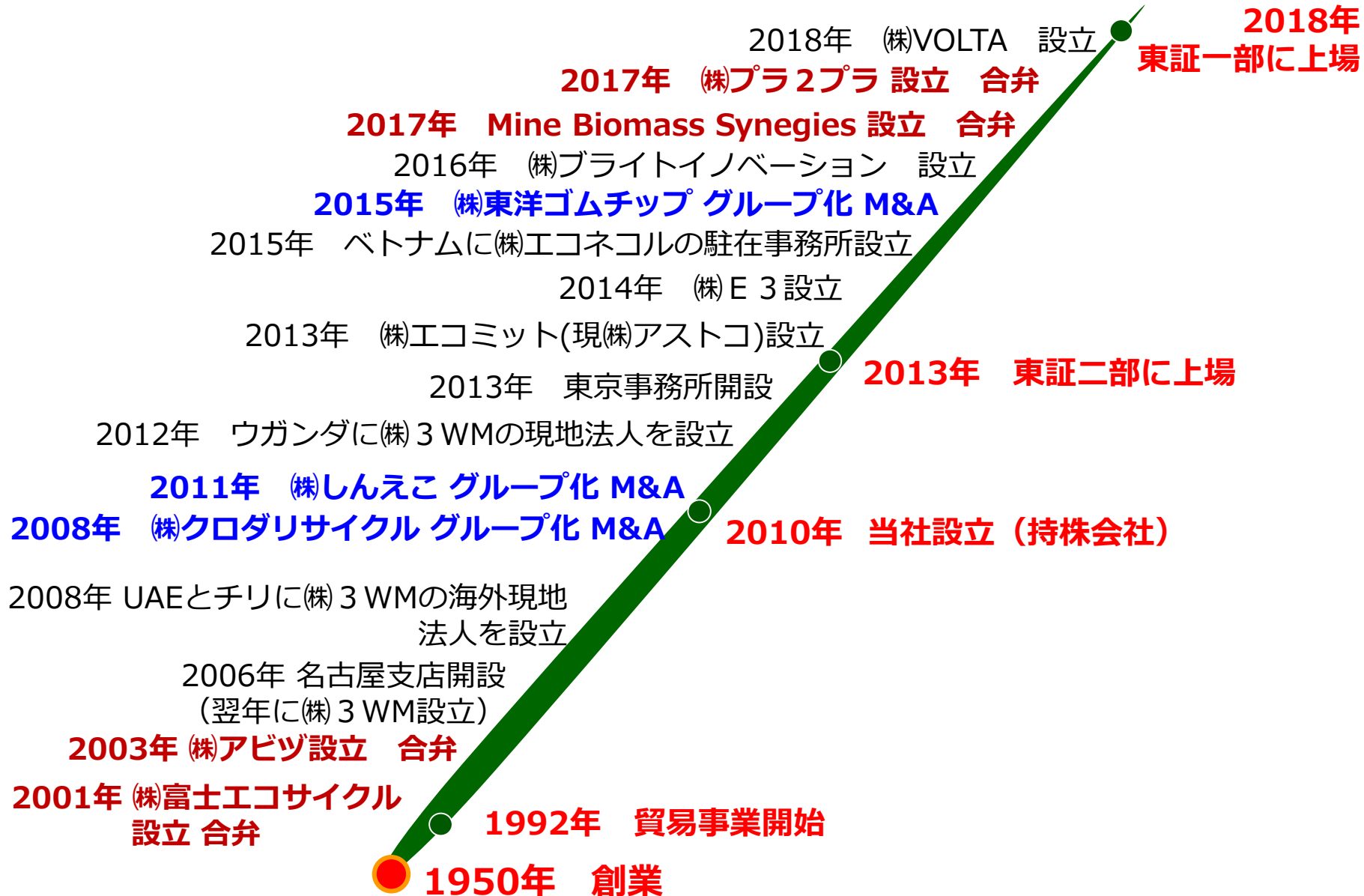
函館、松本、富士宮、清水、浜松（2箇所）、名古屋、群馬、安曇野、一宮

【海外拠点】

- 1 UAE現地法人（株）3 WM海外子会社
- 2 チリ現地法人（株）3 WM海外子会社
- 3 ウガンダ現地法人（株）3 WM海外子会社
- 4 ホーチミン駐在事務所（株）エコネコル海外事務所
- 5 マレーシア集荷ヤード
（合弁会社Mine Biomass Synergies）
- 6 インドネシア集荷ヤード
（合弁会社Mine Biomass Synergies）



グループ沿革



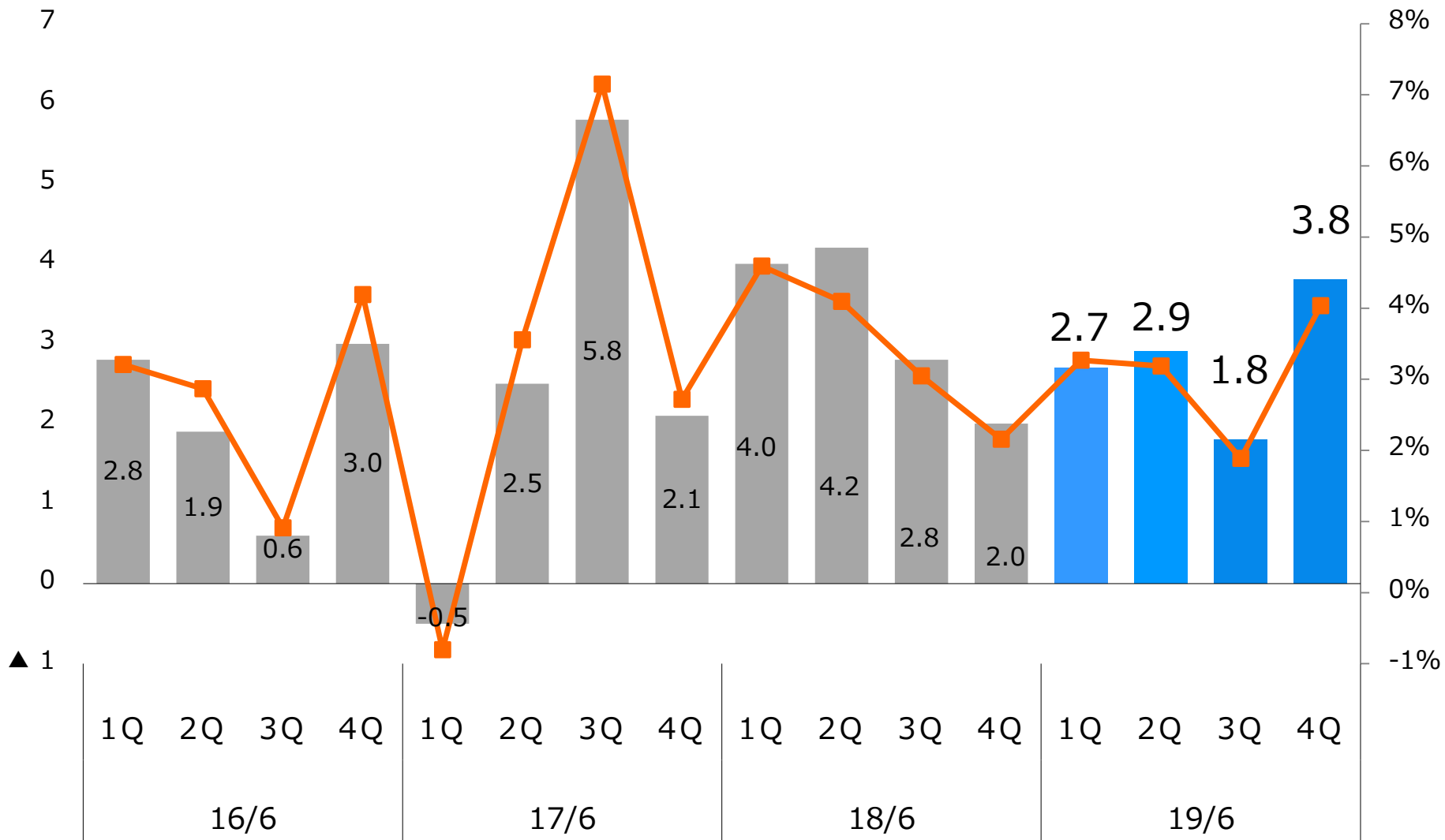
4. 参考データ

四半期經常利益推移

■ 經常利益

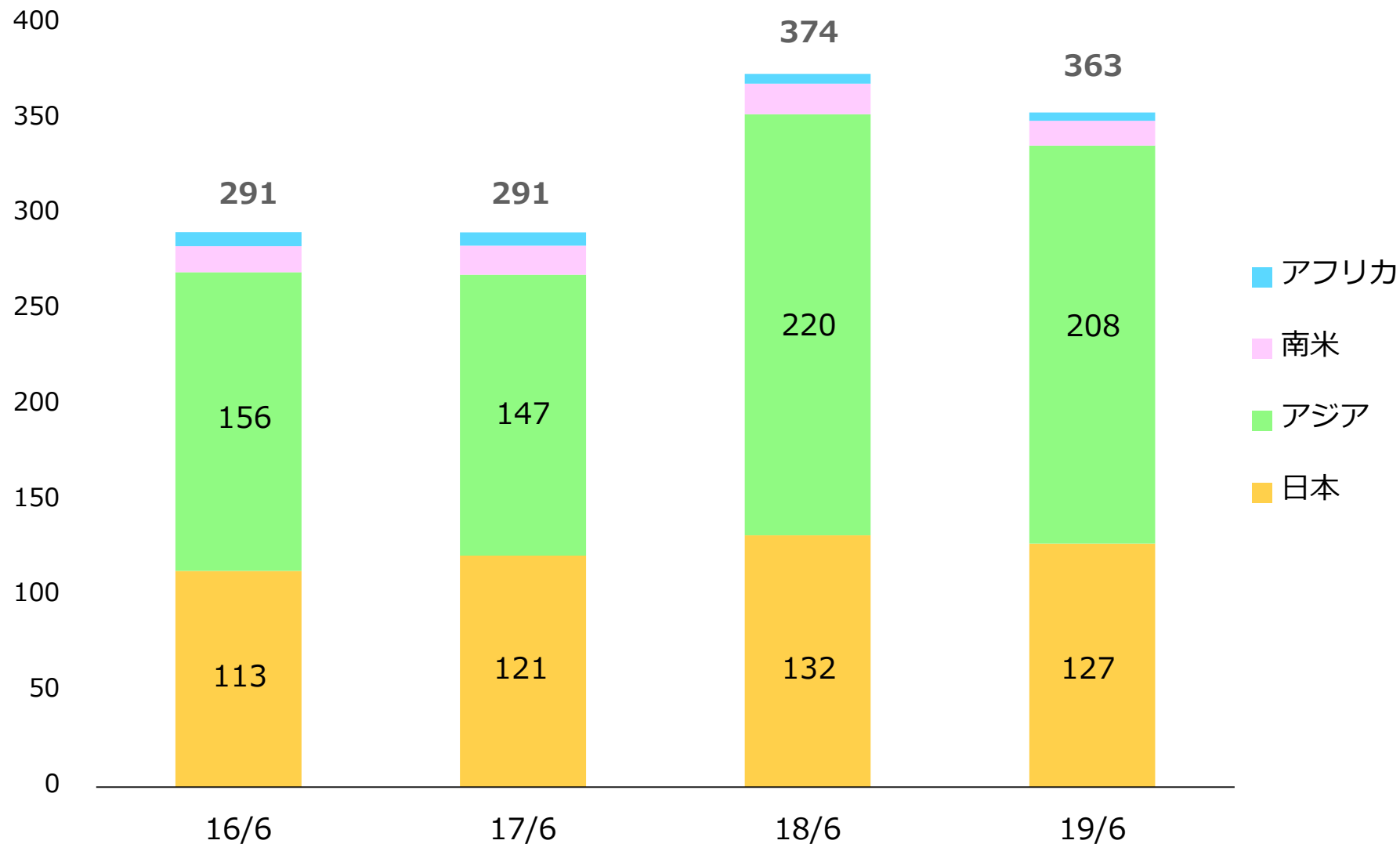
■ 經常利益率

(単位：億円)

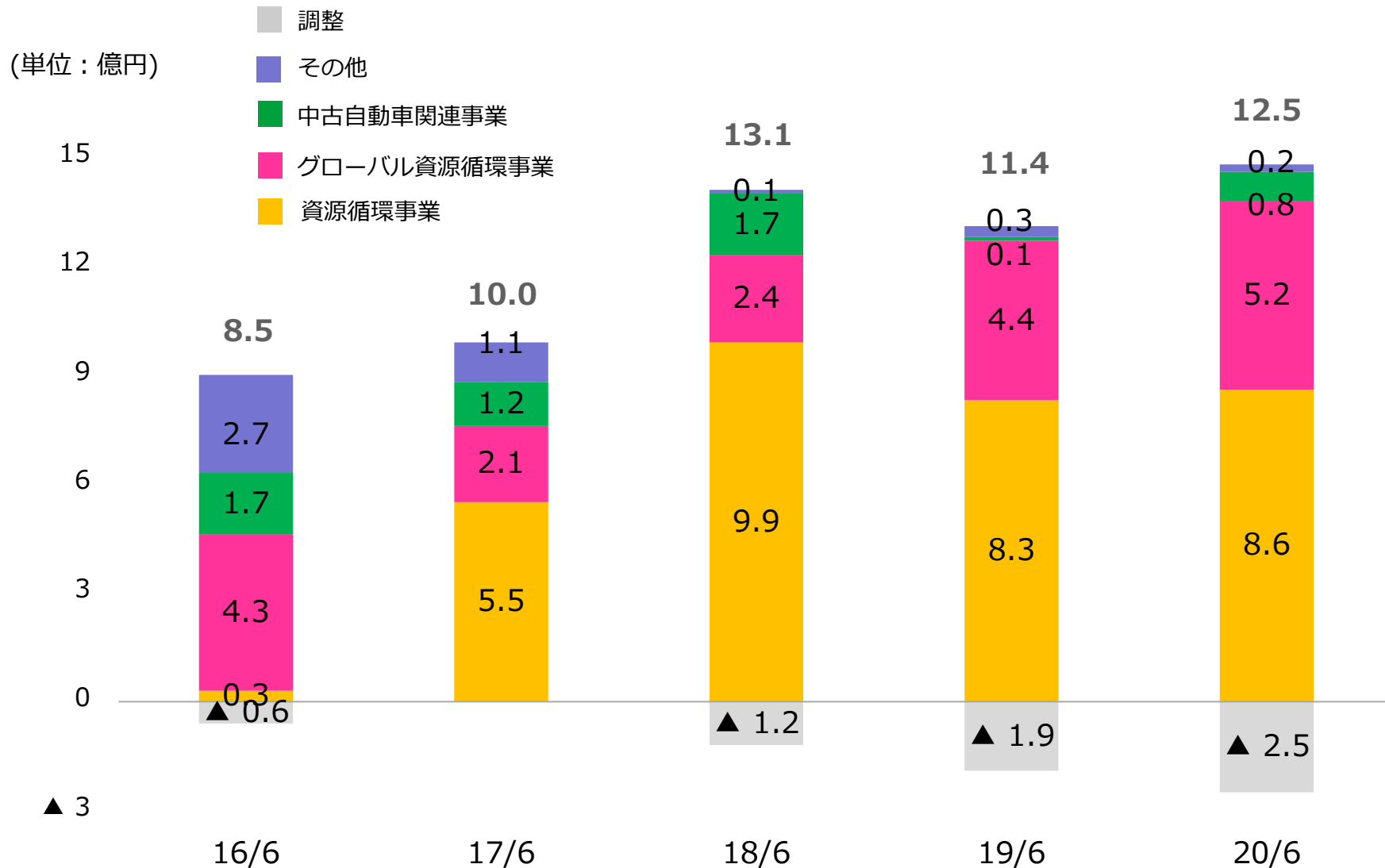


地域別売上高推移

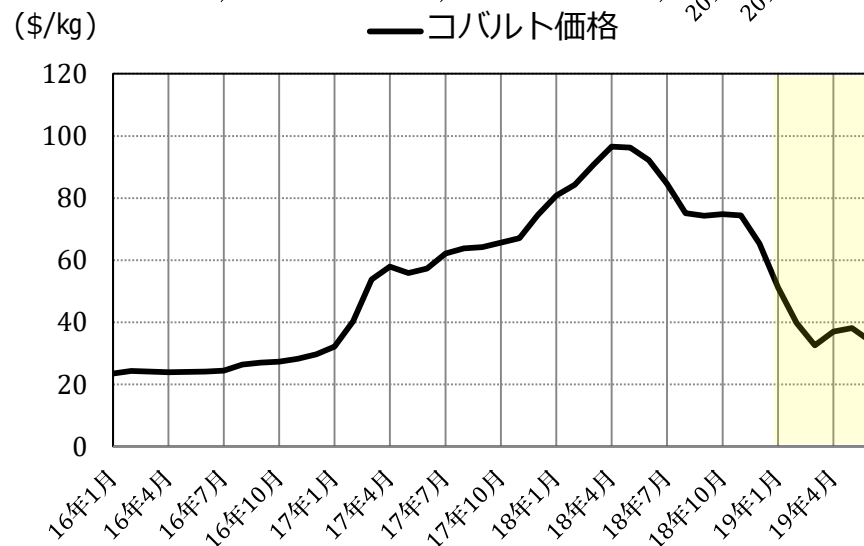
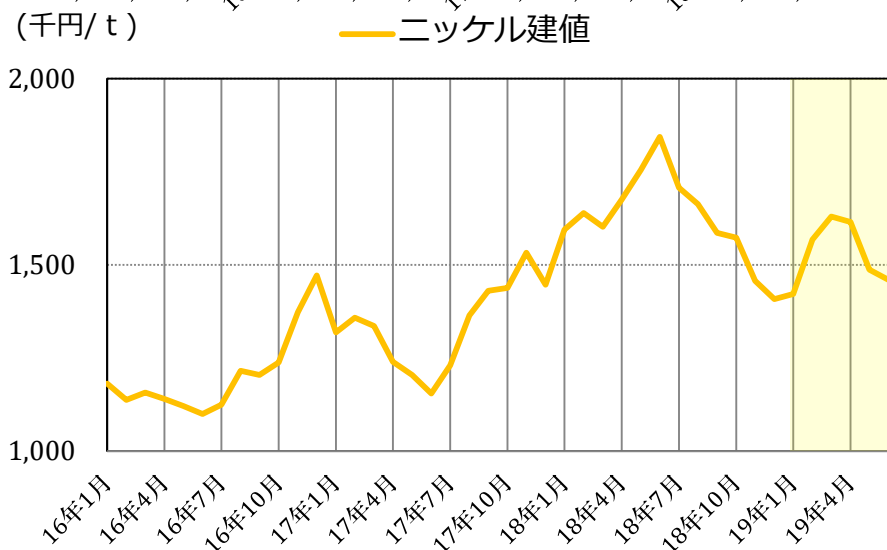
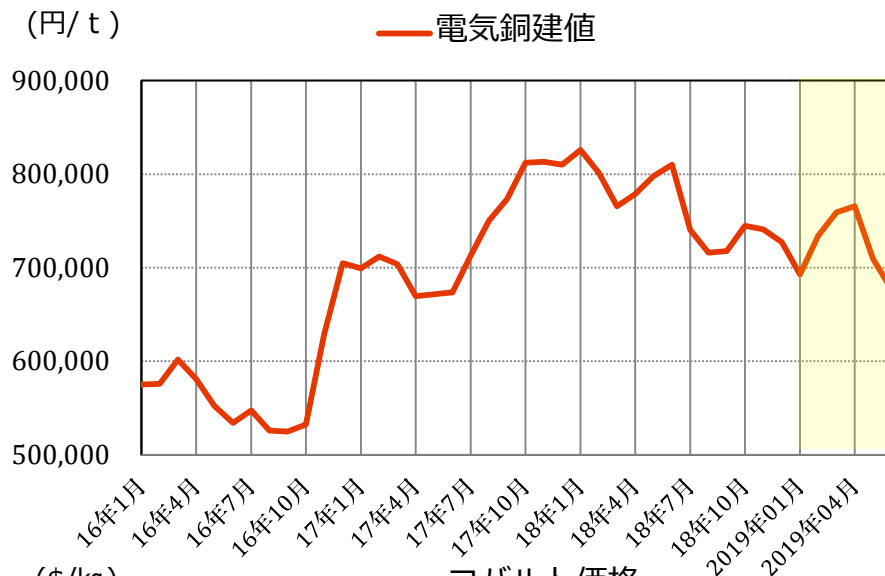
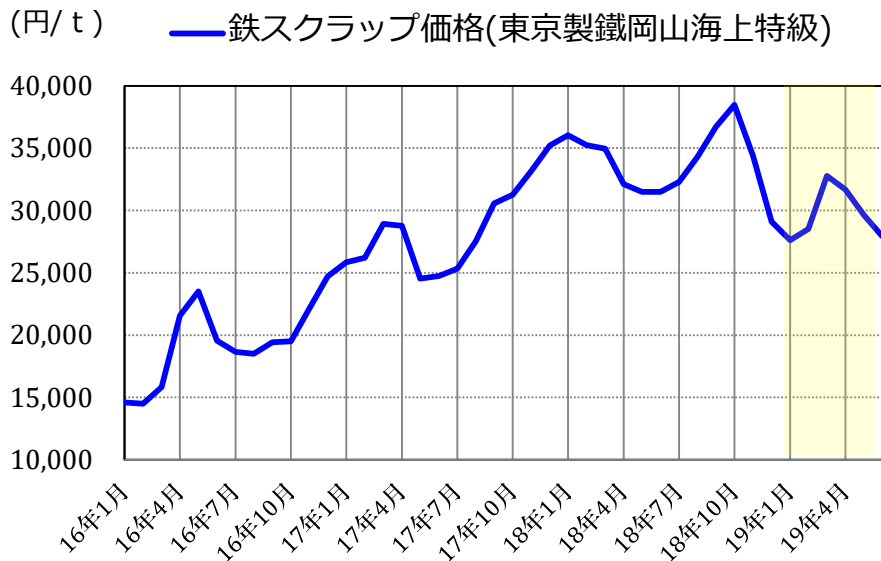
(単位：億円)



セグメント別利益推移見込み



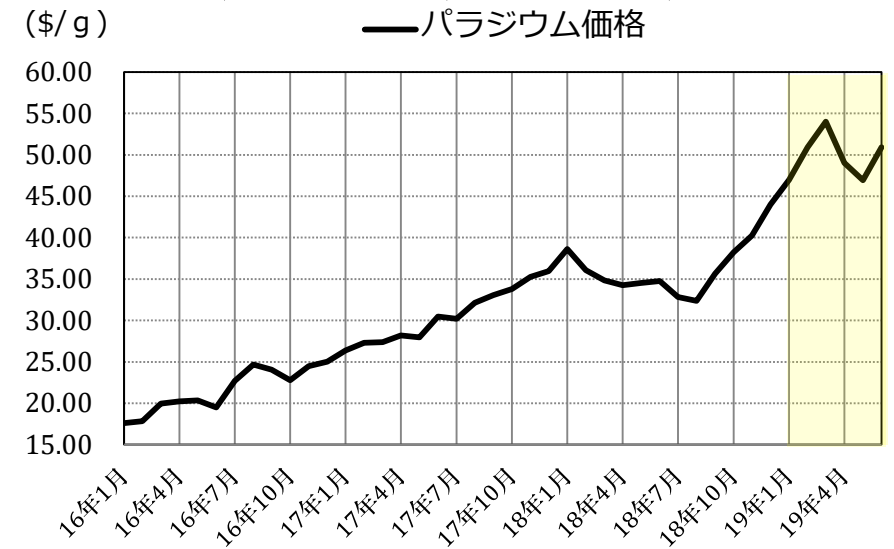
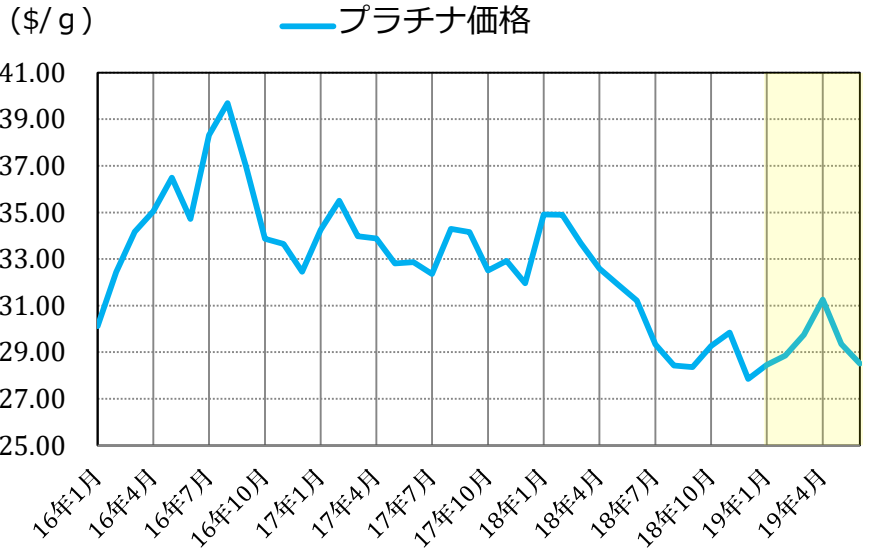
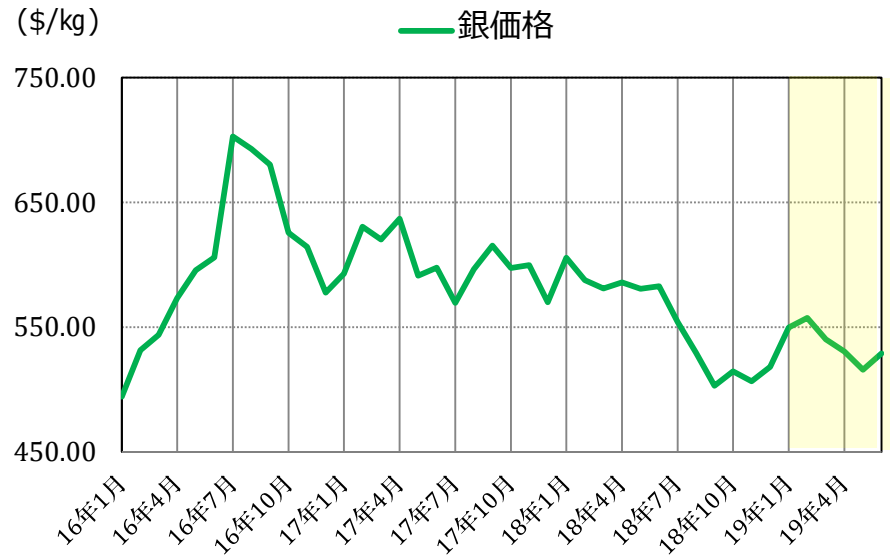
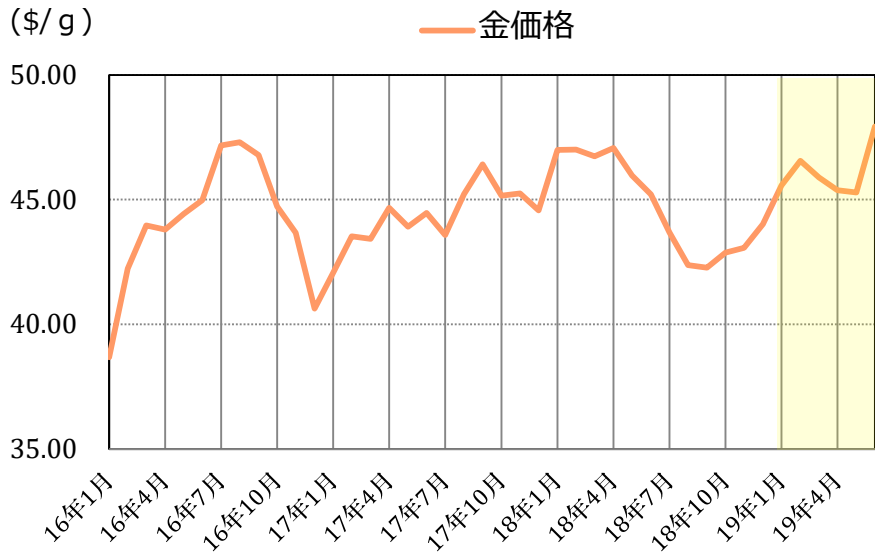
相場推移①



(出所) 東京製鐵(株)、(株)日本経済新聞社

(出所) 一般社団法人日本電線工業会、IRUNIVERSE(株)

相場推移②

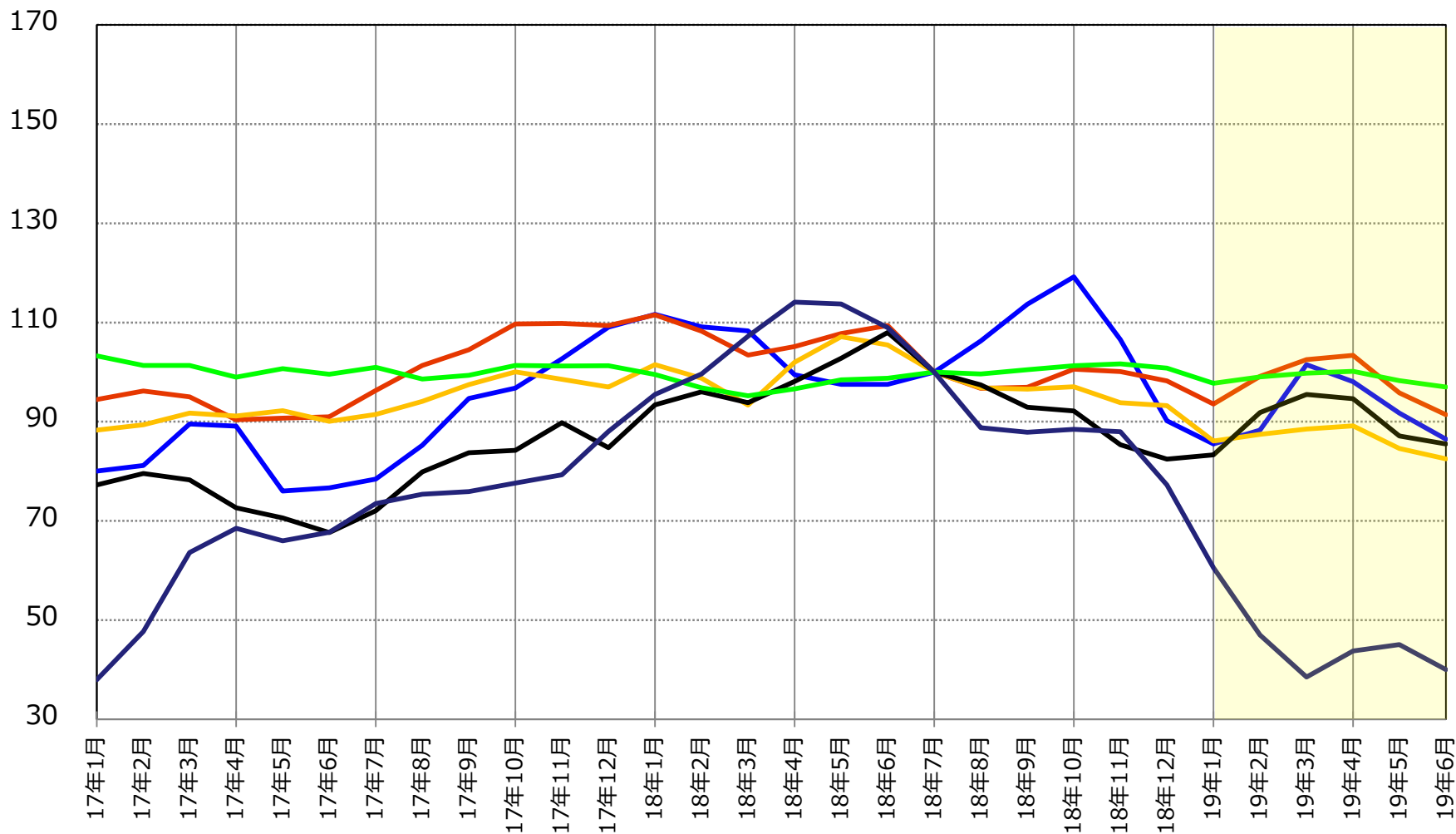


(出所) Kitco Metals Inc

相場推移③

金属相場の推移 (INDEX推移 2018年7月を100とする)

鉄スクラップ価格 電気銅建値 アルミ建値 ニッケル建値 ドル/円 為替 コバルト価格



(出所) 東京製鐵(株)、(株)日本経済新聞社、一般社団法人日本電線工業会、(株)日刊産業新聞社、IRUNIVERSE(株)

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 58-0521

URL <https://www.envipro.jp/>